



**KANSAI
UNIVERSITY**

教職支援センター一年報

2013

関西大学 教育推進部
教職支援センター

『教職支援センター年報 2013』目次

教職支援センター年報の発行に寄せて	教職支援センター長	山本 登朗	1
<小論文>			
学生自身の生き方を問う「生徒・進路指導論」の授業 ～児童生徒の葛藤に寄り添うために～	非常勤講師	南 悟	2
G.H. ノイヴェークにおける<知識/技量>の意味論 ——教員養成における<理論/実践>問題の手がかりとして——	非常勤講師	山名 淳	11
小学校家庭科教育の課題と学校教育上の位置	文学部教授	山本 冬彦	21
<報告>			
関西大学「教職概説」の一クラスにおける学生たちの教科の好き嫌い	非常勤講師	池上 徹	31
「教育実習・教職実践演習・教育実習事前指導」についての報告	非常勤講師	尾崎 進	37
体罰問題をどう扱うか—学生の経験と意見より—	非常勤講師	保田 その	42
<ショートレポート>			
「多文化主義」教育の現在	非常勤講師	印藤 和寛	48
学校映画のすすめ	非常勤講師	椎口 育郎	55
各学部・大学院で取得できる教員免許状の種類・免許教科			58
介護等体験 参加者数			60
中学校・高等学校教育実習生数			61
教員免許状取得状況・免許取得者数一覧			62
教員採用試験合格者状況・合格者数			69
教員採用試験「大学推薦」の応募状況・合否結果			72
教員採用試験 試験日・合格発表日等			73
教員採用試験に向けて～支援制度を積極的に活用しよう～			75
2年次生対象「教育実習受講希望者ガイダンス」について			76
介護等体験事前指導について			78
本学卒業新任教員の方々との情報交換会について			79
3年次生対象「教育実習ガイダンス」について			80
教員養成フォーラムについて			82
教員採用試験合格者との情報交換会について			84
教職専門科目担当者研究会について			86
教員採用試験合格者壮行会について			87
教職に関する専門教育科目担任者一覧			88
教育実習出向指導校一覧			94
教職支援センター 利用状況			96
教員免許状更新講習一覧			98
教職支援センター年報 投稿規程・執筆要領			99
教職支援センター委員会委員名簿			101
教職支援センター規程			103

関西大学「教職概説」のクラスにおける学生たちの教科の好き嫌い

関西大学非常勤講師 池上 徹

はじめに

筆者は2014年1月に中学校社会科を中心とした教科イメージに関する調査を、本務校と非常勤講師を担当する関西大学の学生たちに行った。全体の分析は他稿にゆずるとして、ここでは分析していない関西大学の学生たちのみに限定したデータをここでは紹介したい。

ただし、調査結果はあくまでも「教職概説」の1つのクラスのみのものであることを留意する必要がある。また紙面の制約から教科のイメージよりも好き嫌いに焦点をあてる。

調査の目的

筆者は主に本務校において健康科学科に所属する養護教諭をめざす学生たちの指導にあたっている。他に本務校で課程認定を受けているのは、社会福祉学科の中学社会、高校公民、高校福祉、それに福祉栄養学科の栄養教諭である。調査の主たる目的は、「成績をつけない」先生である養護教諭をめざす学生が、社会科を中心とした各教科についてどのようなイメージを持っているかを探ることにある。社会科を中心としているのは、この学科構成に由来する。ただし、養護教諭をめざす学生のほとんどが女子であること、また社会科以外の教科の免許をめざす多くの学生のデータを集めて比較できるように、関西大学で2013年度から担当することになった「教職概説」の最終回にも調査を行った。

調査の概要

(1)調査の実施

調査は2014年1月に関西大学「教職概説」の秋学期月曜日2限のクラス、およびその前月に本務校の1年次配当「教職概論」と2年次配当「教育社会学」において最終回の際に集団自記式で実施した。回答数は関西大学が110人、本務校が167人の計277人である。

(2)調査内容

冒頭に中学生の頃の各教科の好き嫌いおよび最も好きだった教科と嫌いだった教科をきいた。次に主たる調査内容である各教科のイメージについては梅本・伊藤(1965)の「教科についてのイメージの分析的研究」を参考に作成した。「明るい-暗い」「単純な-複雑な」といった尺度を各教科ごとに全16項目について7件法できいたものである。かなり以前の調査ではあるが、意外にも複数の教科をまたがったの教科に対するイメージの研究は少なく、本研究で探りたかった「暗記科目」ということへの項目、また各教科が持つジェンダーイメージへの項目の双方が入っており、かつ調査対象者に極力負担が軽くなるような先行研究がなかったためである。参考にした研究は高校での教科イメージであるが、項目としてそのまま中学校にも使用できると判断し、また英語・数学・国語・理科・社会の5教科ⁱⁱについて実施しているため、本研究でもそのままこの5つの教科について質問した。

ただし、調査の順番は学習指導要領通りに国語から始まって英語で終わる形とした。さらに社会科についてはイメージに関する自由記述、中学校の社会科で楽しかったことやいやだったこと、さいごに教員志望の強さについて質問した。

調査結果

(1) 基本属性

調査対象となった関西大学の学生の基本属性は以下の通りである。

図表 1 学部 (N=108)

学部	人数	%	学部	人数	%
法学部	4	3.7%	政策創造学部	2	1.9%
文学部	29	26.9%	外国語学部	20	18.5%
経済学部	10	9.3%	システム理工学部	4	3.7%
商学部	9	8.3%	環境都市工学部	1	0.9%
社会学部	8	7.4%	化学生命工学部	21	19.1%

工学部担当のクラスのため、全体の 1/4 ほどが工学系 3 学部となっている。最も多いのは文学部で 1/4 をわずかに超えており、外国語学部も 1/5 に近い割合を占める。一方、社会科学系の 5 学部も合わせると 1/3 近くになる。

図表 2 性別および学年 (N=106)

性別				学年							
男性		女性		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
64	61.5%	40	38.5%	100	94.3%	2	1.9%	3	2.8%	1	0.9%

性別については工学部担当ということもあって、男性のほうが 6 割強と多い。学年については 1 年次配当の科目であるためほぼ全員が 1 年生である。

図表 3 取得希望免許 (複数回答)

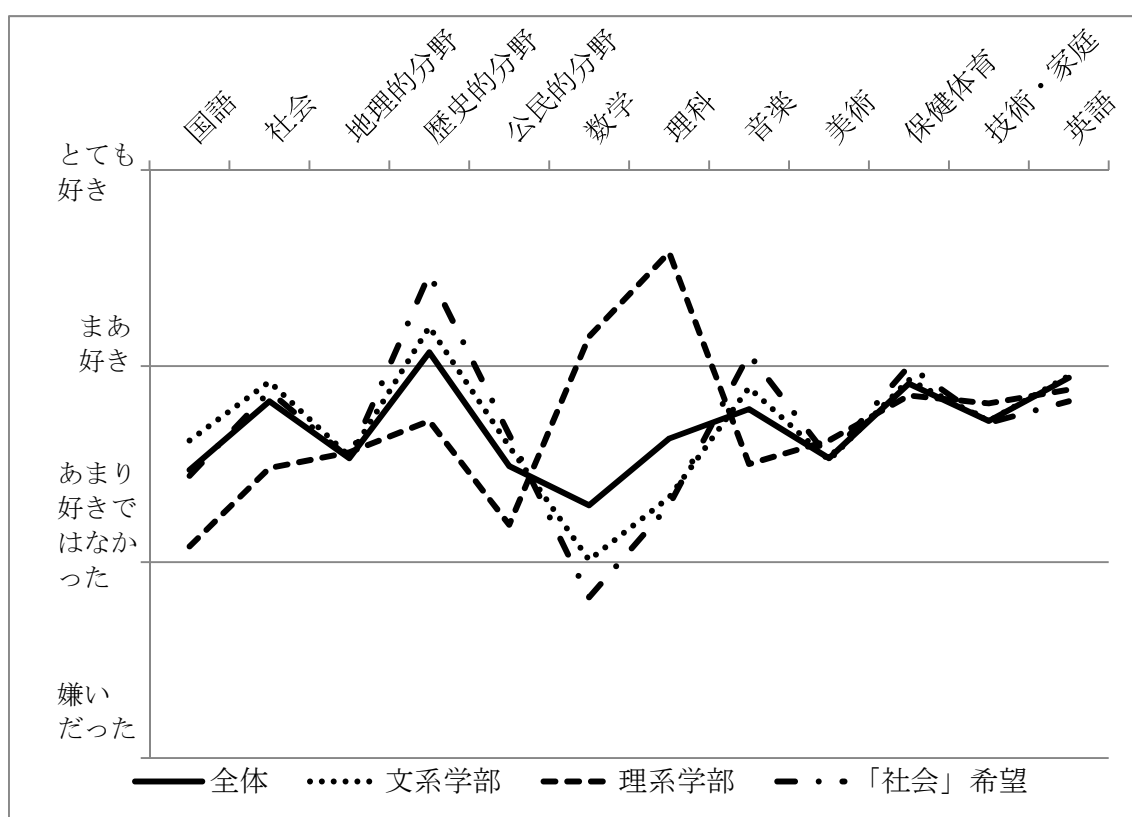
国語		社会		地理歴史		公民		数学		理科	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
8	7.5%	17	15.9%	36	33.6%	20	18.7%	4	3.7%	22	20.6%
英語		情報		商業		工業		職業指導		小学校教諭	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
31	29.0%	1	0.9%	4	3.7%	2	1.9%	2	1.9%	7	6.5%

取得希望免許については希望する免許全てをあげてもらった形とした。最も多かったのは地理歴史で1/3ほどを占め、次に多かったのが英語で30%近かった。学部構成と同様に数学と理科で1/4ほどになる。なお、1年生のためか、本来所属する学部では取得不可能な免許を希望するとした回答者もいたが、ここでは訂正せずにそのまま記載した。

(2) 教科の好き嫌い

教科の好き嫌いについては、まず各教科ごとに4件法でたずねた。その平均値をグラフにしたのが図表4である。全体の他に、工学系3学部で所属している学生を理系学部、それ以外を文系学部とし、また取得希望免許で「中学社会」を選んだ学生も載せた。

図表4 教科の好き嫌い



文系学部の学生が多いために、全体の傾向は文系学部に近いものとなる。当然のことではあるが、理系学部は数学や理科が最も「とても好きだった」に近く、逆に「あまり好きではなかった」に最も近くなるのは国語と社会科のうちの公民的分野である。社会科の各分野のうち、社会の免許取得希望学生のみならず文系学部でも歴史的分野は好きだった傾向が高いが、地理的分野と公民的分野は社会の免許取得希望学生ですら中間的な結果となっている。また社会の免許取得希望学生は、文系学部よりも数学や理科への拒否感が強い。

教科の好き嫌いについては、さらに最も好きだった教科、最も嫌いだった教科もあげてもらった。その結果がそれぞれ図表5、図表6である。

図表5 最も好きだった教科

	全体		文系学部		理系学部		社会免許取得希望	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
国語	10	9.7%	9	11.5%	1	4.0%	2	11.8%
社会	7	6.8%	7	9.0%	0	0.0%	1	5.9%
地理的分野	3	2.9%	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
歴史的分野	21	20.4%	17	21.8%	4	16.0%	7	41.2%
公民的分野	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
数学	10	9.7%	4	5.1%	6	24.0%	1	5.9%
理科	12	11.7%	4	5.1%	8	32.0%	0	0.0%
音楽	7	6.8%	6	7.7%	1	4.0%	1	5.9%
美術	2	1.9%	2	2.6%	0	0.0%	2	11.8%
保健体育	13	12.6%	9	11.5%	4	16.0%	2	11.8%
技術・家庭	1	1.0%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%
英語	17	16.5%	17	21.8%	0	0.0%	1	5.9%

最も好きな教科として、全体では社会科のうちの歴史的分野と英語をあげた学生が多く、これは文系学部の傾向に影響されている。理系学部は理科や数学が最も多くなるが、理系学部であっても社会科の歴史的分野や保健体育をあげた学生もいる。また、社会科のうちの公民的分野は唯一、最も好きと答えた学生がいなかった。

図表6 最も嫌いだった教科

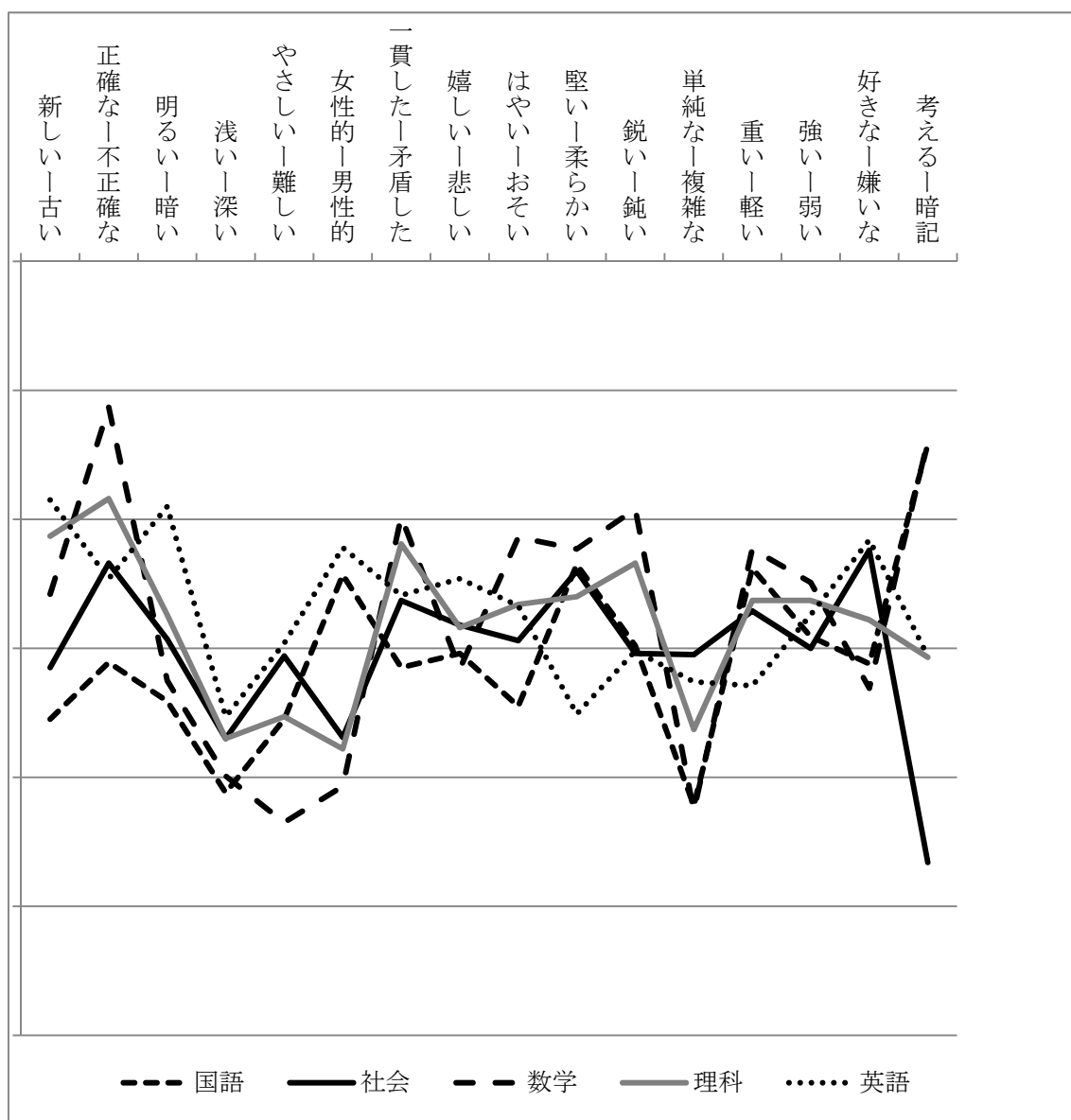
	全体		文系学部		理系学部		社会免許取得希望	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
国語	20	9.7%	11	14.3%	9	36.0%	4	23.5%
社会	1	1.0%	0	0.0%	1	4.0%	0	0.0%
地理的分野	5	4.9%	3	3.9%	2	8.0%	0	0.0%
歴史的分野	4	3.9%	3	3.9%	1	4.0%	0	0.0%
公民的分野	8	7.8%	6	7.8%	2	8.0%	2	11.8%
数学	31	30.4%	30	39.0%	1	4.0%	9	52.9%
理科	6	5.9%	5	6.5%	1	4.0%	0	0.0%
音楽	5	4.9%	2	2.6%	3	12.0%	0	0.0%
美術	7	6.9%	4	5.2%	3	12.0%	0	0.0%
保健体育	7	6.9%	5	6.5%	2	8.0%	0	0.0%
技術・家庭	1	1.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
英語	7	6.9%	7	9.1%	0	0.0%	2	11.8%

最も嫌いな教科として一番多く上がったのは数学で、その次が国語だった。これも好きと同様に文系学部への傾向に影響されている。理科離れが問題視されているが、文系学部でも理科をあげたのは6.5%にすぎなかった。理系学部で最も嫌いだったのは国語だった。また、社会の免許取得を希望しているにもかかわらず公民的分野をあげた学生が11.8%いた。

(3) 各教科のイメージ

教科のイメージについて、全体の結果をグラフにしたのが図表7である。

図表7 各教科のイメージ



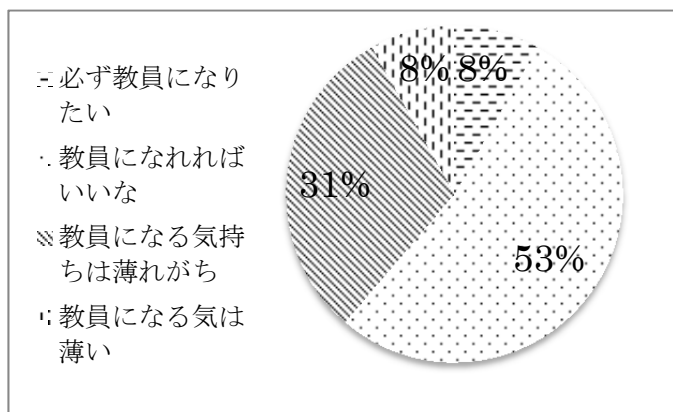
社会はダントツで「暗記」のイメージが強いことがわかる。調査項目としてこの次に聞いた自由記述でも「暗記」の文字がならんだ。一方、国語と数学は「考える」教科だと思われる。数学は「正確」「難しい」「複雑な」というイメージも強い。

(4) 教員志望の強さ

さいごに、1年生に限定して調査時点での教員志望について聞いた結果が図表8である。

強く教員になることを望んでいるのは8%で、ほぼ半数が「なればいい」といった志望だった。一方4割の学生が消極的に考えている。講義開始時に同様の内容で調査をしていないため「教職の意義等に関する科目」としての狙いの結果かどうかはわからない。当然こののち教職課程を受けていく中で動機が強まることもあるだろう。

図表8 1年生の教員志望の気持ち(N=98)



おわりに

以上、一クラスのみでの調査ではあるが、教職課程を履修している学生（ほぼ全員1年生）たちの教科の好き嫌いの一端をかいまみることができた。

様々な教科の免許の取得を希望する学生が集まってきているため、調査結果としてまとめるとどうしても中心化傾向がめだつ面もある。ただ、質問紙を個別にみていくと実に個性豊かとも言うべき、あらゆるパターンの好き嫌いがあることがみえてくる。

例えばごく少数ではあるが、工学系の学部にも所属しているが中学校の時には理科が嫌いという学生がいた。どのような理由で工学系の学部に進学してきたかはわからないが、もしかしたら高校生の時に中学生の時とは全く違う、何か理科的なことでプラスの経験をしたのかもしれない。いわゆる物化生地といった科目の違いも関係があるかもしれない。

社会の免許の取得を希望しているのに公民的分野が嫌いというのもごく少数に存在した。他にも最も好きな教科を社会科の歴史的分野、最も嫌いな教科を社会科の公民科分野と答えるような極端な例もあった。公民的分野は自由記述でも非常に分が悪かった。

社会科学系の学問内容は中学校で言えば公民的分野が基礎になっているはずで、これは教職課程に限らず大学における社会科学系の学びについて検討が必要な調査結果といえる。

さいごに、様々なタイプの学生が集まる「教職概説」のあり方をこれからも模索していきたいと考えている。

参考文献

梅本堯夫・伊藤徹(1965)、「教科についてのイメージの分析的研究」『日本教育心理学会総会発表論文集』第7号、282-283 ページ

i 本務校ではこの名称の科目は1クラスしか開設されていない。そのため本調査には本務校で教員免許取得を希望する1, 2年の全学生が含まれる。非常に多くのクラスが開設される関西大学とはこの点が異なる。

ii 1965年当時のため、「地理歴史」「公民」ではなく「社会」となっている。